

科目名	看護理論			担当教員：○鈴木啓子・永田美和子・佐久川政吉・伊礼優・清水かおり・大城凌子・玉井なおみ・比嘉憲枝	
科目名(英語)	Nursing Theory				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	6	看護学科棟 17 (鈴木)	講義終了後

1. 授業の概要：

この科目では看護理論の批判的（クリティーク）分析や看護実践への有用性に焦点をあてる。看護学の知識体系の構築の知識を踏まえ、理論、実践、研究の関連について評価を行う。また看護実践のための科学的知識の開発に関する多様な方法により、より高度な看護実践に向けた知識の形成のために活用する。この内容についてはプレゼンテーションを中心に参加型の授業を展開する。

2. 到達目標：

- (1) 看護理論の発展過程と歴史的背景を理解する。
- (2) 専門職としての看護における理論の意義を理解する。
- (3) 主な看護理論とその概念を説明し、分析し、臨床実践や教育・研究への適用について理解する。

3. 授業の計画

第 1 週	看護理論の概要(看護のメタパラダイム,理論とは,看護理論と実践・研究)	(鈴木啓子)
第 2 週	看護理論の種類と歴史的発展過程	(鈴木啓子)
第 3 週	看護理論の開発過程と理論の分析・評価	(鈴木啓子)
第 4 週	オレム看護理論(セルフケア看護理論)	(鈴木啓子)
第 5 週	レイニンガー看護理論(ケアリング理論)	(大城凌子)
第 6 週	ワトソン看護理論(ケアリング理論)	(永田美和子)
第 7 週	ベナー看護理論(現象学的看護論)・ロイ看護理論(適応モデル)	(清水かおり)
第 8 週	ニューマン看護理論(システムズモデル)	(玉井なおみ)
第 9 週	ペンダー看護理論(ヘルスプロモーション)	(比嘉憲枝)
第 10 週	危機理論/悲嘆理論/ストレスコーピング理論	(玉井なおみ)
第 11 週	社会認知理論/保健信念モデル/アンドラゴジー	(玉井なおみ)
第 12 週	トランスセオレティカルモデル/プリシード・プロシードモデル	(比嘉憲枝)
第 13 週	ライフサイクル理論	(伊礼 優)
第 14 週	ストレングス理論/エンパワメント理論	(佐久川政吉)
第 15 週	理論をつかっの事例分析・まとめ	(鈴木啓子)

4. テキスト：・ロレイン・オルゼウスキ・ウォーカー他(中木高夫・川崎修一訳)：看護における理論構築の方法,医学書院,2008.

・カレン・グランツ,他(曾根智史他訳)：健康行動と健康教育 理論,研究,実践,医学書院,2006.

参考文献：・Karen Glanz, et al: Health Behavior and Health Education Theory, Research, and Practice, Forth Edition, Jossey Bass,2008.

・筒井真由美編著：看護理論家の業績と理論評価,医学書院,2015.

・ジョン・R・カットクリフ他(山田智恵里監訳)：看護の重要コンセプト 20,看護分野における概念文責の試み,エルゼビアジャパン,2008.

・アン・マリナー・トメノ他(都留伸子監訳)：看護理論家とその業績 第3版,医学書院,2004.

・フォーセット(大田喜久子,筒井真由美監訳)：看護理論の分析と評価 新訂版,医学書院,2008.

・野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論,メヂカルフレンド社,2010.

・シャーリー・M・ジグラー他(竹尾恵子監訳)：理論に基づく看護実践,医学書院,2002.

・佐藤栄子編著：事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門第2版,日経研,2009.

この他各担当教員から紹介があるので参考にすること

5. 準備学習：

各自テキストを自分なりに読み込み用語の理解、理論の概要についての理解を進めること。日常の看護実践および研究に向けて理論の分析、その活用について考えて授業に臨むこと。また、プレゼンテーションはクリティカルシンキングを行い、準備をする。

6. 成績評価の方法：

・授業に対する参画（看護論をクリティークする力、プレゼンテーション、討論への積極的参加） 50点

・課題レポート（看護論をとりあげ研究もしくは実践と結びつけ批判的に考察する） 50点

・合計 100点満点

7. 履修の条件：なし

8. その他：事前に提示された学習課題に取り組み授業に参加すること。事前に該当テキストおよび配布された資料を読みこみ授業に臨むこと。(教員の予定は変更になる可能性もあることをあらかじめ承知ください)

科目名	看護学研究方法論 I			担当教員：○玉井 なおみ 鈴木 啓子 砂川 昌範	
科目名(英語)	Introduction to Nursing Research I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	6	看研 5 (玉井なおみ) 看研 17 (鈴木啓子) 研 407 (砂川昌範)	火曜日・金曜日 7 限

1. 授業の概要：

看護における研究の意義と特徴を理解し、文献検討、研究デザイン、研究方法、倫理的配慮、研究計画書、学术论文の書き方などの一連の研究プロセスを学習する。

2. 到達目標：

看護における研究の意義を理解し、看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、専門演習、特別研究を実施するための基盤を作ると共に、今後の研究活動に活用できることを目標とする。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	看護研究の意義と動向, 特徴	(玉井なおみ)
第 2 週	看護研究の基本的なプロセス	(玉井なおみ)
第 3 週	研究課題の吟味について	(鈴木 啓子)
第 4 週	系統的文献検索の方法と実際	(玉井なおみ)
第 5 週	文献クリティーク	(玉井なおみ)
第 6 週	研究課題と研究デザイン	(鈴木 啓子)
第 7 週	質的研究のプロセス	(玉井なおみ)
第 8 週	質的研究のプロセス	(玉井なおみ)
第 9 週	量的研究のプロセス	(砂川 昌範)
第 10 週	量的研究と統計的解析	(砂川 昌範)
第 11 週	研究倫理と研究者の責務	(鈴木 啓子)
第 12 週	研究計画書の作成に関して	(玉井なおみ)
第 13 週	研究計画書に関する討議	(玉井なおみ)
第 14 週	原著論文のまとめ方	(玉井なおみ)
第 15 週	原著論文のまとめ方 学会などの発表に関して	(玉井なおみ)

4. テキスト：

- ・ Denise F. Polit , Cheryl Tatano Beck (2004)/近藤潤子 監訳 (2010) : 看護研究 原理と方法, 医学書院, 東京.
- ・ APA (2010)/江藤裕之他 訳(2011) : APA 論文作成マニュアル (第 2 版), 医学書院, 東京.

参考文献：適宜提示する

5. 準備学習：毎回，課題を提供するので，次回までに準備すること。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 50 点 (評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容 50 点 (評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ)
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件：特になし

8. その他： 必修科目であり，修士論文作成のための基本になる科目のため，学生主体でプレゼンテーションを重ね，専門演習，特別研究に継続させてほしい。

科目名	看護学研究方法論Ⅱ			担当教員：○松下聖子 山浦晴男 木村安貴	
科目名(英語)	Introduction to Nursing Research				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	6	研 601 (松下聖子) (木村安貴)	火曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要：

基本的な研究方法である質的研究と量的研究の特徴とその方法を学習する

2. 到達目標：

看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、専門演習、特別研究を実施するための基盤を作ると共に、今後の研究活動に活用できることを目標とする。

3. 授業の計画と内容

第1週	質的研究と量的研究について・コースガイダンス	(松下聖子)
第2週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第3週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第4週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第5週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第6週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第7週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第8週	質的研究法 【演習：質的統合法 (K J法)】	(山浦晴男)
第9週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第10週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第11週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第12週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第13週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第14週	量的研究法 【演習：SPSSによるデータ処理】	(木村安貴)
第15週	ミックス法について	(松下聖子)

4. テキスト：

参考文献：「看護研究 原理と方法」, 監訳 近藤潤子, 医学書院,
「APA論文作成マニュアル」APA,江藤裕之他訳, 医学書院

5. 準備学習：毎回、課題を提供するので、次回までに準備すること。

6. 成績評価の方法：

- ・質的研究の活動状況 50点
(評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)
- ・量的研究の活動状況 50点
(評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件：特になし

8. その他： 必修科目であり、修士論文作成のための基本になる科目のため、学生主体でプレゼンテーションを重ね、専門演習、特別研究に継続させてほしい。